

# (紹介) 東洋英和女学院所蔵「徳富愛子」関連資料

半藤 英明

徳富愛子(旧姓原田、一八七四—一九四七)は、明治二十七年(一八九四)に二十歳で徳富健次郎、即ち、徳富蘆花(一八六八—一九二七)へ嫁いで以来、同郷(熊本、

蘆花は水俣、愛子は菊池)である夫の人生(の大半)を支え続けた賢婦人である。蘆花の作品群の生成に深く関与し、

清書、校正、推敲などの作業のほか、作品の文章・文体に彼女の考えが活かされていることも、しばしばである。その象徴でもある自伝的小説『富士』は夫婦の共著である。自らも文章を書き、水彩画を描き、歌をたしなむなど、その文化的教養の深さも知られる。

本稿は、熊本県立大学「蘆花研究」プロジェクトの研究活動の一環で、明治三十九年(一九〇六)に東京の東洋英和女学校(当時)に寄宿していた愛子にかかる資料の紹介である。

徳富愛子の文筆家としての評価は、殆ど為されていないが、蘆花の作家活動に深く関係している愛子は、蘆花の研

究を進める上でも、もっと顧みられてよい。本稿が蘆花研究者の目にとまることで、蘆花研究の新たな可能性が開けることを望むものである。

今回の資料の閲覧に当たっては、学校法人東洋英和女学院史料室の協力を得た。

○

大学のミッション(の一つ)として地域文化研究を推進する熊本県立大学は、蘆花生誕から百四十年目に当たる平成二十年、文学部に「蘆花研究」プロジェクトを発足させ、熊本県内の蘆花書簡目録の作成や研究者によるシンポジウムなど、数々の活動を行い、それらの成果を新書版の『至宝の徳富蘆花』(熊本県立大学編、熊本日日新聞社、平成二十一年六月)としてまとめ、世に送り出した。その中に、川平敏文による「新出・蘆花の葉書―熊本県立大学新

收十五通から―」があるが、これは、この機に大学が入手した蘆花自筆の葉書を翻刻、紹介しているものである。

その一枚に、蘆花が所謂「順礼紀行」の旅(約四ヶ月間)に出かける途中、門司から熊本(の姉夫婦へ書いた葉書の翻字がある。その一文には「お愛は東京麻布鳥居坂英和女学校英語学修の為、寄宿致候」の記述がある。この記述に基づいて、女学校寄宿時代の関連資料の調査を行ったところ、現在の東洋英和女学院に所蔵されている次の資料の存在が明らかになった。

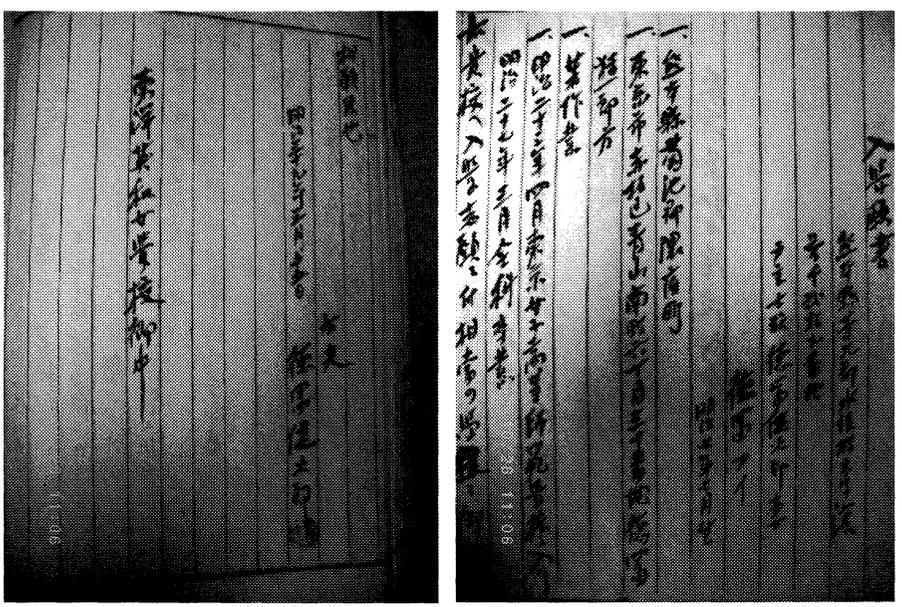
- ① 明治三十九年度 入学願書 在学証書
- ② 外国人教師用の学生リスト
- ③ 成績関係の記録

以下に、それぞれの記載内容を簡単に紹介する(住所の地番などの詳細は記さない)。



- ① 明治三十九年度 入学願書(資料1) 在学証書(資料2)

縦28 cm、横20 cm。表紙に「明治三十九年度 入学願書 在学証書」



【資料1】

東洋英和女學校」の標記。入学願書、在学証書とも和紙、便箋などに書かれたものを一つ綴じにしてある。当時は定まった出願用紙はなく、様式随意であった。

願書に記載されているのは、氏名、本籍、現住所、職業、最終学歴である。筆は、恐らく蘆花のもので、「入學願書」の書き出しに続き、

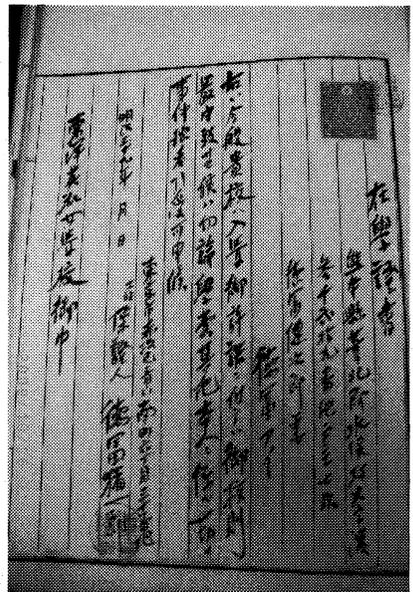
熊本縣葦北郡水俣村大字濱 徳富健次郎妻 徳富アイ

明治七年七月生と記されている。続いて

- 一、熊本縣菊池郡隈府町
- 一、東京市赤坂区青山南町 徳富猪一郎方

とあり、後者は保証人住所でもある。更に、職業として「著作業」、最終学歴には「東京女子高等師範學校」「全科卒業」と書かれている。末尾には「明治三十九年三月十五日 右 夫 徳富健次郎」の署名と捺印がある。

在学証書についても、筆は、やはり蘆花のものと思われる。書き出しは入学願書と同様であるが、続いて、校則を遵守する旨の誓約などが書かれている。そのあとに「土族保証人 徳富猪一郎(捺印)」と書かれている。日付は「明治三十九年 月 日」となっており、あとで書き加えられ



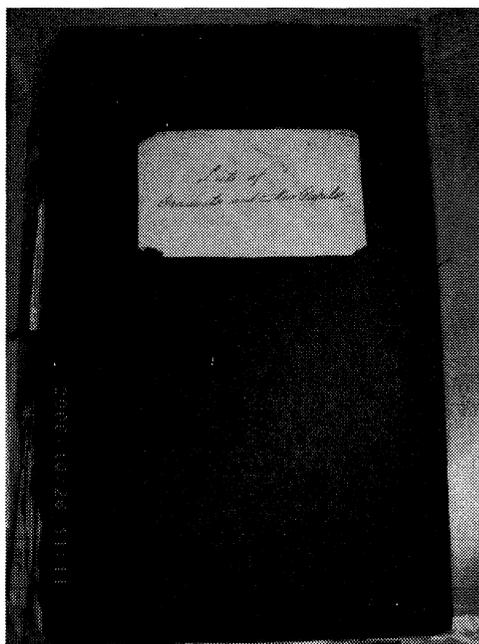
【資料 2】

るようにしてあることから、前もって書かれ、書類提出時に付すように用意されていたものであると判断される。

② 外国人教師用の学生リスト (名称は Lists of Graduates and new Pupils) (資料 3)

縦 34 cm、横 21 cm。ノートブック。緑色の表紙にタイトル(英語表記)の紙片が貼り付けてある。

東洋英和女学校は、カナダのメソジスト教会婦人伝道会社から派遣された宣教師により創設された学校で、明治十七年(一八八四)、麻布鳥居坂に開校した。当時は、全ての授業が英語で為されていたとされる。外国人教師の便



【資料 3】

宜のため、学生に関する最低限の情報を記したリストが作られており、本資料はそれに当たる。  
 愛子に関する記述は、1906 と書かれた項にある。アカデミックIVのクラス（本科か）在籍であった。  
 内容は次の通り。入学後の九月には「夫の帰国」との事由で中退していたことが分かる（蘆花の帰国は八月上旬）。

1906

Ent.	Age	Eng cl	Former School	home	Guardian →
Ai Tokutomi	Apr.11	32 July	Acad. IV	Kōtō shihan g	akasaka Brother

→ Remarks

Withdrew on husband's return from abroad sept. '06

③ 成績関係の記録 (名称は English Marks) (資料4)

縦33 cm、横33 cm。ノートブック。藍色の表紙。背表紙に Marks 1907-1920 と表記された紙片が貼り付けてある。外国人教師によるテスト関係の成績データである。

愛子の寄宿時代を知る人物によれば、愛子はいろいろな授業に顔を出していたと語られる。しかし、在籍期間が短く、成績データの記録は少ない。但し、少なくとも、英文学、英語史、地理学を学んでいたことが確認できる。



【資料4】

Acad. IV

	Literature	E history	Geog
Ai Tokutomi	65	75 80	55 82